

死体腎移植における選択肢提示の諸問題に関する研究

研究分担者 加藤 庸子 藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科 教授
研究協力者 小野 元 聖マリアンナ医科大学脳神経外科 准教授

研究要旨:

改正臓器移植法の施行により脳死下臓器提供数は増加している。しかし臓器提供全体数は減少もしくは増加していない。その原因の1つには心停止下臓器提供の減少がある。そのため我が国の移植待機数と提供数のアンバランスはさらに増加しており、法改正後の改善点の1つでもある。救急医療現場における選択肢提示やドナー管理負担や日常業務負担について本研究では臓器提供における負担軽減のため、心停止下臓器提供時の終末期医療の選択に対するサポートや説明と同意等に対応することに主眼を置き研究を進める。

A. 研究目的

医療機関において臓器提供への負担軽減は必要であるが、インセンティブや脳死判定時間や事務的処理等が注目されてきた。しかしより大きな課題は入院後の家族への説明や承諾に至るまでの過程における臓器提供へ対応にある。本研究では特に心停止下臓器提供に対する選択肢提示と対応についての課題解決を目的とする。

B. 研究方法

臓器提供可能施設における臓器提供への選択肢提示と家族希望を踏まえた終末期対応の現状を勉強会の形で検証した。

(倫理面への配慮)

個人情報の扱いについては十分考慮しPCにおける情報はPWによるロックをかけ、書類については鍵付きロッカーでの管理を行うなどの対応により厳重に管理する。

C. 研究結果

2018年11月2日、場所:藤田医科大学ばんだね病院において組織移植セミナーとして勉強会を開催した。座長:加藤庸子(ばんだね病院脳神経外科)、朝居朋子(藤田医科大学)田中秀治(国士舘大学)、明石優美(藤田医科大学)、講師:井澤浩之(はちや整形外科) 剣持敬(藤田医科大学) 上山昌史(JCHO中央病院) 平野耕治(藤田医科大学)

愛知県下の多くの提供可能病院、多職種の医療者の参加により開催した。

内容;わが国の組織移植のこれまでの将来像/同種骨移植の現状などの臓器提供と組織提供における選択肢提示や現状について学習した。

D. 考察

ポテンシャルドナーへの対応は各医療機関においても差があり院内体制整備に対する対応の必要性が再認識された(剣持)。組織提供については徐々に提供数が増加している。臓器提供時に至る場合とは別に組織コーディネーターの説明が必要でありかなりの手間となり、一緒に説明して行くことで組織提供の増加が可能。

E. 結論

各医療機関において臓器提供への対応はそれぞれである。組織提供も臓器提供と同様に家族への選択肢提示を積極的に行う必要がある。課題の中心は国民が通常医療と同じように、臓器提供を含めた終末期の選択肢提示から、臓器提供に限らない選択を医療者と共に進めることが、より重要であると思われる。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

- ・小野元、佐瀬泰玄、高砂浩史、吉田泰之、
田中雄一郎、加藤庸子：臓器提供に対する臨床倫理的考察.脳死・脳蘇生 2018;30:51-6

2. 学会発表

- ・小野元、田中雄一郎、加藤庸子：臓器提供を含めた終末期医療への臨床倫理による具体的な対応. 第46回日本救急医学会総会学術集会（横浜）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし